

哲学・思想

松岡達也著

バシュラルの世界

—文学と哲学のあいだ—

四六判・402頁・3,500円

本書は、現代フランスの第一級の批評家であり「想像力の哲学者」ガストン・バシュラルの方法概念を、現象学と精神分析という20世紀前半の思想潮流とともに生きたサルトル、メルロ＝ポンティと比較しつつ論じる。ヨーロッパが発見したコギトは超克されたか？

[1984] 978-4-930689-24-5

久保田勉／稲垣良典編

人間の探究

「人間とは一体何であるか」。古来より人間は繰り返し自らに問い続けてきた。本書は、愛と死と人間観をめぐる古今東西の思索の跡を訪ねて、危機の時代における正しいヒューマンズムへの帰還を訴える。

[品切] 四六判・284頁・2,000円

[1988] 978-4-930689-98-6

安藤隆穂著

フランス啓蒙思想の展開

本書は、ヴォルテール、モンテスキューに始まり、デイドロ、エルヴェシウス、ルソー、チュルゴを経て、コンドルセやロベスピエールに至る18世紀フランス啓蒙思想がフランス革命に流れこみ更には19世紀思想へと連なる過程を、統一的かつ比較思想的に確定する。

[品切] A5判・336頁・5,000円

[1989] 978-4-8158-0105-2

ヴィクトル・ファリアス著 山本尤訳

ハイデガーとナチズム

著者は、12年をかけて可能な限りの資料と記録を調べ上げ、従来の定説を覆してハイデガーが初期から一貫して戦間的なナチであったことを実証する。出版と同時にヨーロッパの思想界がごうごうたる論争の坩堝と化した話題の書の完全訳。ハーバーマスのドイツ語版序文付。

[品切] A5判・400頁・4,300円

[1990] 978-4-8158-0142-7

エルンスト・カッシーラー著 蘭田坦訳

個と宇宙

—ルネサンス精神史—

『象徴形式の哲学』や『人間』等で著名な20世紀哲学の巨匠が、「自然＝認識」問題を基底に据えて個性的統一体としてのルネサンス哲学の全体像を描き出した名著。多様で複雑なルネサンス哲学の構造と展開が、時代の精神的・文化史的文脈に位置づけ浮彫りにされている。

A5判・314頁・3,800円

[1991] 978-4-8158-0155-7

田中秀夫著

スコットランド啓蒙思想史研究

—文明社会と国制—

本書は、時代の課題としての文明社会論と国制論を焦点に、スミス、ヒュームだけでなくケイムズ、ハチスン、ファergusen等周辺の人物をも視野に収めてスコットランド啓蒙運動を歴史内在的に考察する。欧米の最新の成果を消化して書かれたスコットランド啓蒙思想復権の書。

A5判・362頁・5,500円

[1991] 978-4-8158-0157-1

フリッツ・K. リンガー著 西村稔訳

読書人の没落

—世紀末から第三帝国までのドイツ知識人—

A5 判・372 頁・5,500 円

機械と大衆の登場によって文化的危機にみまわれた世紀末ドイツの学者＝読書人層は、一方で新しい人文社会科学を創り出すとともに、他方極度の混乱と対立を経てナチズムにからめとられていく。本書は学者達を襲ったこの危機の過程を学問とメンタリティに分け入って跡づける思想史の傑作。

[1991] 978-4-8158-0159-5

ヘルムート・プレスナー著 土屋洋二訳

遅れてきた国民

—ドイツ・ナショナリズムの精神史—

[品切] 四六判・324 頁・2,800 円

「ドイツにとって近代とは何だったのか」。M. シェーラーと並ぶ哲学的人間学の定礎者プレスナーが亡命の地オランダにおいて、遅れて近代に登場したドイツ精神のジレンマとナチズムへの頹落を思想史の深みから考察する。近代ドイツの運命を見据えた予言と内省の書。付「私の履歴書」

[1991] 978-4-8158-0168-7

黒積俊夫著

カント批判哲学の研究

—統覚中心的解釈からの転換—

[品切] A5 判・360 頁・6,000 円

本書は、フィヒテよりカウルバッハにいたるまでの伝統的な統覚中心的カント解釈を批判し、先験的・超個人的な主観ではなく、経験的で個人的である主観こそが、カントの批判哲学において中心的な役割を果たしているとするロゴス中心的解釈の視点から、カント哲学の再構築を試みる。

[1991] 978-4-8158-0170-0

小柳公代著

パスカル 直観から断定まで

—物理論文完成への道程—

[品切] A5 判・512 頁・9,500 円

『パンセ』のパスカルは、スコラ学やデカルトに抗して実験の重要性を唱えただけではなく、それを厳密に実行した実験科学者としても名高い。本書は通説を覆し、そのパスカルの物理論文が、実は天才的な幾何学的直観を支えた「思考実験」によって構築されていることを立証する。

[1992] 978-4-8158-0175-5

ピーター・バーク著 岩倉具忠／岩倉翔子訳

ヴィーコ入門

四六判・220 頁・2,700 円

デカルト的学問の根拠を問い直し、歴史と言葉の世界を思考した、18 世紀ナポリの思想家ヴィーコ。難解をもって知られる彼の思想の全体像を、現代イギリスのブリリアントな歴史家が、明快に描き出した、ヴィーコの世界への最良の案内。ヴィーコの言語思想に関する訳者の長文解説を付す。

[1992] 978-4-8158-0187-8

佐野 誠著

ヴェーバーとナチズムの間

—近代ドイツの法・国家・宗教—

A5 判・344 頁・5,500 円

ヴェーバーはナチズムの思想的先行者か？ わが国で未開拓な教会法史家ルドルフ・ゾームやカトリック公法史家カール・シュミットの研究を基礎にしつつ、ヴェーバーが権力国家論者で国家主義者であるとするモムゼン・テーゼを、法・国家・宗教思想に即して検証する新鮮なヴェーバー研究。

[1993] 978-4-8158-0211-0

W. ビーメル／H. ザーナー編 渡邊二郎訳

ハイデgger＝ヤスパーズ往復書簡

—1920～1963—

[品切] 四六判・464 頁・4,500 円

ともに哲学の刷新を掲げて出発するも、ナチズムと戦争の時代を、ナチへの加担と苦難の日々という対照的な形でぐり抜け、そして20世紀を代表するに至った二人の思想家の、決して交わることのない思考の道すじと、だからこそ求められた心の交流への試みを、静かに刻みこんだ希有な記録。

[1994] 978-4-8158-0232-5

橋川文三著 筒井清忠編・解説

昭和ナショナリズムの諸相

A5判・298頁・5,000円

『日本浪漫派批判序説』『近代日本政治思想の諸相』等々、戦争体験をバネに、個性的文体と脱領域的知性をもって昭和超国家主義の核心にあるナショナリズムの内在的理解とその超克への道を切り拓いた著者の単行本・著作集未収録の入手困難な論考集成。ナショナリズム再考の必読文献。

[1994] 978-4-8158-0234-9

D. ポイカート著 雀部幸隆／小野清美訳

ウェーバー 近代への診断

四六判・288頁・2,900円

もし「アウシュヴィッツ」以後もウェーバーが生きていたとしたら……。ナチス史研究・ワイマル史研究に優れた業績を挙げた歴史家が、ウェーバーによる「近代の病理学」の根幹を掴み出し、その診断の可能性を展開した卓抜な論考。「神なく予言者なき時代」の正統性は何処にあるのか？

[1994] 978-4-8158-0242-4

安西敏三著

福沢諭吉と西欧思想

—自然法・功利主義・進化論—

〔品切〕A5判・456頁・8,000円

本書は、ミル、スペンサー、ブラックストン、ギゾー、バッケル等福沢の思想形成に最も大きな影響を与えた西欧思想と福沢思想との関連を自然法・功利主義・進化論を軸に、福沢が読み、書き込んだ手沢本の綿密系統的な考証を通じて解明する。福沢研究史の大きな欠落を埋める力作。

[1995] 978-4-8158-0255-4

久保田勉／稲垣良典編

現代の思想と人間

四六判・246頁・2,200円

全体は「現代への道程」「人間と自然」「人間と死」の三部から成り、自然環境と人間や、死と医療をめぐる問題等、現代人が直面する深刻な諸問題を、「人間とは何か」という根源的問いを踏まえ、かつ各テーマに関する専門家も参加して具体的平明に考察する。好評の『人間の探求』の姉妹編。

[1995] 978-4-8158-0258-5

F. K. リンガー著 筒井清忠他訳

知の歴史社会学

—フランスとドイツにおける教養 1890～1920—

A5判・352頁・5,500円

『読書人の没落』においてドイツ大学知識人の教育・文化・イデオロギーを解明した著者が、世紀転換期のフランス大学知識人界の思想を、この時期の教育と階層構造の変動を視野に入れつつドイツとの比較のもとに解明する知と教養の歴史社会学。知の歴史社会学に新生面を拓く。

[1996] 978-4-8158-0276-9

神野慧一郎著

モラル・サイエンスの形成

—ヒューム哲学の基本構造—

A5判・338頁・6,000円

精密な人間科学を打ち立てようとしてヒュームが書き、欧米では現在も最も言及されることの多い『人間本性論』全巻を対象に、当時の政治・社会・思想状況をも射程に入れてその思想の全体像を描く。それはまた現代社会科学の脊梁たるモラル・サイエンスの形成を辿ることでもある。

[1996] 978-4-8158-0287-5

森際康友編

知識という環境

〔品切〕A5判・284頁・3,800円

知識観の分裂をもたらし近代知識論を批判しつつ、行為の場面から生態系・知的分業秩序までを視野に入れ、知覚知・言語知から科学知・実践知へと広がる知識の領域、そして暗黙知を含めた知識の深層を照射。そのリアルな姿を求めて、環境としての知識構想を展開した白熱の論集。

[1996] 978-4-8158-0298-1

石川文康著

カント 第三の思考

—法廷モデルと無限判断—

A5 判・332 頁・4,800 円

われわれの理性がまさしく理性的であることによって抱え込んでしまう根源的な矛盾や限界はどのようにして乗り越えられるのか？ カントによる理性批判の深層構造を、法廷モデルと無限判断のメカニズムをもって描き出し、そのダイナミズムと広大な射程とを浮彫りにする。

[1996] 978-4-8158-0299-8

堀田誠三著

ベッカリーアとイタリア啓蒙

A5 判・298 頁・5,700 円

ベッカリーアは近代刑法学と死刑廃止論の先駆者として知られているが、本書では、『犯罪と刑罰』から『文体論』と『公共経済学』へという彼の社会思想の性格を明らかにするとともに、18 世紀イタリア思想史の中に位置づけることによって、イタリア啓蒙の見取り図と特質を浮彫りにする。

[1996] 978-4-8158-0301-8

松永俊男著

ダーウィンの時代

—科学と宗教—

四六判・416 頁・3,800 円

17 世紀に成立した西洋近代科学は、神に由来する自然の秩序と合目的性を見いだすことを目的としていた。本書は、常識化された科学と宗教の闘争史観を排し、元来宗教に一体化していた科学がイギリス自然神学の中から分離・自立していく過程をダーウィンの進化論に即して克明に究明する。

[1996] 978-4-8158-0303-2

A.O. ラヴジョイ著 鈴木信雄／市岡義章／佐々木光俊訳

人間本性考

四六判・340 頁・3,800 円

「悪人たちによっても良き社会は形成しうる」——「観念の歴史」を提起した碩学が、17、8 世紀の西洋で盛んに試みられた「人間本性論」を渉猟し、承認願望、自己称讃、競争心、高慢さといった観念を軸に、近代思想の底に流れる、人間の情念と社会の秩序形成の問題を精緻明晰に考察。

[1998] 978-4-8158-0337-7

大林信治／山中浩司編

視覚と近代

—観察空間の形成と変容—

四六判・328 頁・3,000 円

近代は視覚の時代か——さまざまに語られる「視覚」と「モダニティ」の関係を、美術史、科学史、思想史、文学史などの領域から横断的に研究。ルネサンス以降の「観察空間」の形成と 19 世紀以降の変容という歴史的展開を射程に入れ、均質な近代イメージの限界と経験の多様な可能性を問う。

[1999] 978-4-8158-0361-2

米山 優著

モナドロジーの美学

—ライブニッツ／西田幾多郎／アラン—

[品切] A5 判・352 頁・5,800 円

等閑視されたライブニッツ単子論の美学的側面を、原子論・粒子論・単子論という思考過程の展開や情念論・心身二元論の再評価・再検討を介して読み解き、西田の行為的直観、アランの散文の美などを手がかりに単子論的思考が美的なものとしてあらわれてくる地平を大胆かつ精緻に切り拓く。

[1999] 978-4-8158-0369-8

田中秀夫著

啓蒙と改革

—ジョン・ミラー研究—

A5 判・494 頁・6,800 円

本書は、アダム・スミスの弟子にしてスコットランド啓蒙の到達点を示すジョン・ミラーの思想を解説することによって、文明史的視点にたつ法＝統治の学問と、共和主義思想との緊密な統合の姿を明らかにし、その先駆的な仕事の全体像を初めて浮かび上がらせた労作である。

[1999] 978-4-8158-0371-1

水田 洋著

思想の国際転位

—比較思想史的研究—

A5 判・326 頁・5,500 円

戸田山和久著

論理学をつくる

B5 判・442 頁・3,800 円

長尾伸一著

ニュートン主義とスコットランド啓蒙

—不完全な機械の喩—

A5 判・472 頁・6,000 円

石川文康著

良心論

—その哲学的試み—

四六判・296 頁・2,800 円

納富信留著

ソフィストと哲学者の間

—プラトン『ソフィスト』を読む—

A5 判・432 頁・5,800 円

川合清隆著

ルソーの啓蒙哲学

—自然・社会・神—

A5 判・356 頁・5,800 円

伊勢田哲治著

疑似科学と科学の哲学

A5 判・288 頁・2,800 円

ユートピア思想に始まり、抵抗権や宗教的寛容、あるいはヴォルテール、スミス、ミルなどの近代を形作る諸思想が、国境を越え時間を遍歴する中で交流し位相を変えていく姿を捉えることで、変化を促した社会的文脈と、転位を可能性として持っていた思想の本質を、二つながら追究した労作。
〔2000〕978-4-8158-0388-9

論理学って、こんなに面白かったのか！ 出来あいの論理学を天下り式に解説するのではなく、論理学の目的をはっきりさせた上で、それを作り上げていくプロセスを読者と共有することによって、考え方の「なぜ」が納得できるようにした傑作テキスト。初歩の論理学が一人でマスターできる。
〔2000〕978-4-8158-0390-2

社会科学の形成に与えたニュートン主義の影響を、実験哲学の導入、科学と道徳世界の統合による発展とその解体過程への着目から解明、決定論の世界像というニュートン主義の通俗的解釈を排し、その多様な相貌と近代知のあり方に残した航跡を描出する。**サントリー学芸受賞**
〔2001〕978-4-8158-0402-2

良心の警告、良心の呵責、そして後悔——。良心とは何か？ 良心はなぜわれわれを動かすのか？ 正義論の手前にあるこの問いを、「共に知る」という言葉の原義から出発して、プラトン以降の哲学者の良心論を参照しつつ解き明かし、欲望と方位喪失の時代にさしだした注目の論考。
〔2001〕978-4-8158-0417-6

ソフィストの役割は、これまで不当に軽視されてきた。本書は、プラトンが「ソフィスト」の活動を徹底的に分析・批判し、ソクラテスを範とする「哲学」の言論がいかに成立しうるかを根本から問い直さざるをえなかったことの意味を考察して、問題としての「ソフィスト」を浮き彫りにする。
〔2002〕978-4-8158-0414-5

社会の自然的基礎を廃棄したとき、人間にいかなる歴史が可能なのか——人間の内的自然（本性）と外的自然世界をめぐるルソーの徹底した思考を、18 世紀ヨーロッパ思想のコンテクストに位置づけることによって浮き彫りにするとともに、その「哲学」の全体構想を明らかにした力作。
〔2002〕978-4-8158-0450-3

占星術、超能力研究、中国医学、創造科学……これらはなぜ「疑似科学」と言われるのだろうか。はたして疑似科学と科学の間に線は引けるのだろうか。科学のようで科学でない疑似科学を考察することを通して、「科学とは何か」を解き明かしてゆくユニークで真つ当な科学哲学入門。
〔2003〕978-4-8158-0453-4

A.O. ラヴジョイ著 鈴木信雄／内田成子／佐々木光俊／秋吉輝雄訳

観念の歴史

A5 判・332 頁・4,800 円

存在の連鎖から進化の観念へ——ヨーロッパを彩った思想群の壮大な転換を、「自然」や「ロマン主義」などの観念の基層に降り立って明らかにし、思想史研究に大きな画期をもたらした学際研究の先駆的成果。今なお最も明晰な西洋思想史の古典にして、ラヴジョイ思想史の到達点を示す。

[2003] 978-4-8158-0460-2

赤木昭三／赤木富美子著

サロンの思想史

—デカルトから啓蒙思想へ—

四六判・360 頁・3,800 円

女主人が主宰する優雅で洗練された社交の場は、デカルト思想、新科学、啓蒙思想、フェミニズムなど、新しい思想の創出・交流・伝播を担う重要なメディアにして公共的空間でもあった。17・18 世紀の思想を動かしたフランス・サロン文化の役割をあますところなく描きだす。

[2003] 978-4-8158-0470-1

長尾伸一著

トマス・リード

—実在論・幾何学・ユートピア—

A5 判・338 頁・4,800 円

スコットランド啓蒙を代表する思想家であり「常識哲学」を建設したとされるトマス・リード。本書は、哲学者リードと、科学者・社会思想家リードの結びつきを問い、リードの知的体系の総体を明らかにするとともに、その不完全性が内包する現代的意義を抉出した新しい解釈／批判の試み。

[2004] 978-4-8158-0478-7

伊勢田哲治著

認識論を社会化する

A5 判・364 頁・5,500 円

科学的知識に社会的次元はどのように関わっているのか。——近年急速な発展をみた社会認識論を紹介しつつ、科学社会学と認識論のよりよい関係を構築するために何をすべきか、とりわけ社会学的な理論や知見を認識論や科学哲学にどのように生かすことができるかを考察した気鋭による力作。

[2004] 978-4-8158-0489-3

大橋良介著

聞くこととしての歴史

—歴史の感性とその構造—

A5 判・264 頁・4,500 円

自己と他者が歴史世界において出会う事実そのものに「聞き入る」こと、すなわち物語以前の歴史経験の構造を、東西の諸思想を介して考察。その深層に、共生の感覚としての悲しみと闘達さを探りあてるとともに、歴史時間と主体のあり方を明るみに出し、歴史哲学に新次元をきりひらく。

[2005] 978-4-8158-0515-9

松永俊男著

ダーウィン前夜の進化論争

A5 判・292 頁・4,200 円

『種の起源』に先だつ 1844 年、一冊の書物がイギリス社会を揺さぶった。ジャーナリストによるこのベストセラーの何が問題だったのか。論争の丹念な分析を通して、進化論の争点と受容の過程を示すとともに、自然神学を背景に専門領域として確立しつつあった当時の科学のあり方に迫る。

[2005] 978-4-8158-0529-6

田中秀夫／山脇直司編

共和主義の思想空間

—シヴィック・ヒューマニズムの可能性—

A5 判・576 頁・9,500 円

能動的な市民参加による政治社会はいかにして可能なのか。ポーコックをはじめ近年大きな盛り上がりを見せた共和主義研究を参照点に、英米とヨーロッパにおける近代共和主義の多様な展開を跡づけるとともに、公共哲学としての現代的可能性を探った、わが国初の本格的共同研究。

[2006] 978-4-8158-0541-8

西村 稔著

福澤諭吉 国家理性と文明の道徳

A5 判・360 頁・6,000 円

市民的自由主義者から帝国主義者にわたる従来の「政治的」福澤像を清算、状況的方法と文明論的方法を二つながらに駆使して実践的な言葉を紡ぎ出し続けた巨大な知性の全体像を、「国家」「文明」「道徳」を軸に描き、「賢慮の人」としての福澤を定位した力作。福澤の重厚な批評性が甦る。

[2006] 978-4-8158-0551-7

安藤隆穂著

フランス自由主義の成立

—公共圏の思想—

A5 判・438 頁・5,700 円

啓蒙の諸理念とフランス革命の政治文化を母体として生まれたフランス自由主義の思想像を、公共圏の樹立を課題とした社会思想として捉え直し、チュルゴからコンドルセ、シエース、コンスタン、スタール、ギゾーへと至る自由主義の軌跡を初めて統一的な視点で描いた労作。日本学士院賞受賞

[2007] 978-4-8158-0557-9

川合清隆著

ルソーとジュネーヴ共和国

—人民主権論の成立—

A5 判・286 頁・5,200 円

ルソーはほんとうに全体主義者なのか？——ジュネーヴに生まれ自由な共和国市民としての思想と感情を吸収したルソーが、祖国における市民階級

の政治闘争を背景に、自らの政治思想を結晶させた『社会契約論』。その誕生を歴史的コンテキストの中で捉え、人民主権理論に新たな光をあてる。

[2007] 978-4-8158-0563-0

J. G. A. ボーコック著 田中秀夫／奥田敬／森岡邦泰訳

マキアヴェリアン・モーメント

—フィレンツェの政治思想と大西洋圏の共和主義の伝統—

A5 判・718 頁・8,000 円

マキアヴェッリによる古典的共和主義思想＝「シヴィック・ヒューマニズム」の復興に注目することで、「共和国の不安定性」を焦点とする思想史上の一大事件を捉え、イタリアから英米へと及び思想世界の風景を一変させた文明的波動を、大きな射程と圧倒的な迫力をもって描き出した名著。

[2008] 978-4-8158-0575-3

多賀 茂著

イデアと制度

—ヨーロッパの知について—

A5 判・368 頁・4,800 円

共和国、戦争と平和、都市、田園、教養、批評、看護など、私たちの思考や実践を可能にするしくみは〈イデア〉なしには正しく働かない。ヨーロッパの文化と社会、なかならずその言葉に含まれる知の核心を歴史の深みから明らかにし、自ら律する力を取り出さんとした知的探究の結晶。

[2008] 978-4-8158-0589-0

伊勢田哲治著

動物からの倫理学入門

A5 判・370 頁・2,800 円

動物と人間とは、なにが違うの？ 動物倫理という「応用問題」を通して、倫理學全体へとフィードバック。動物実験、肉食、野生動物保護といった切り口から、人間の道徳までも考えてしまう、しなやかでスリリングでまっとうな、倫理学への最良の入門書。

[2008] 978-4-8158-0599-9

池上俊一監修

原典 イタリア・ルネサンス人文主義

A5 判・932 頁・15,000 円

豊饒なる知の泉へ——。文芸から政治論・教育論・家族論・宇宙論にわたる、ルネサンスの多彩な思想は、ヨーロッパ文化そして近代世界の血肉となって今なお息づいている。古典の探究・教養を通して新たな市民のあり方を模索したイタリア人文主義の精髓を集めた空前の邦訳選集。

[2010] 978-4-8158-0625-5

チャールズ・テイラー著 下川潔／桜井徹／田中智彦訳

自我の源泉

—近代的アイデンティティの形成—

A5判・696頁・9,500円

〈善〉の存在論——人間という主体についての近代的な理解、すなわち〈近代的アイデンティティ〉の複雑さと豊かさ、偉大さと危うさがいかに形成されてきたかを、隠れた道徳的立場とともに明らかにし、その真価を救出。共同体主義・多文化主義で知られるテイラーの著書、待望の邦訳。

[2010] 978-4-8158-0648-4

隠岐さや香著

科学アカデミーと「有用な科学」

—フォントネルの夢からコンドルセのユートピアへ—

A5判・528頁・7,400円

国家による最初の本格的な科学研究機関であるパリ王立科学アカデミーが、科学活動の文化的・社会的な基盤を形成する一方、啓蒙のフィロゾフの参入によって統治のための科学へと踏み込んでいく過程を、本格的に解明。サントリー芸賞、パピルス賞、日本学士院学術奨励賞、山崎賞受賞

[2011] 978-4-8158-0661-3

富永茂樹編

啓蒙の運命

A5判・608頁・7,600円

啓蒙の終焉か、深化か——。近代とともにあった啓蒙の「終焉」が予告されてすでに久しい。だが、啓蒙はその始まりから問いに付され、審問にかけられる中で展開してきた運動であった。啓蒙の多面性に光をあてると同時に、複数の系譜を浮かび上がらせ、その未来を洞察した白熱の共同論集。

[2011] 978-4-8158-0664-4

デイヴィッド・ヒューム著 田中敏弘訳

ヒューム 道徳・政治・文学論集 [完訳版]

A5判・500頁・8,000円

生前のヒュームが最も苦心して改稿を重ね、政治・経済・社会思想から道徳哲学・批評を含む文明社会の広大な領域を横断的に論述したエッセイ集。多くの読者を獲得し、賢人ヒュームの名声を世に知らしめたもう一つの著書が、本邦初訳を多数含む「完訳版」としてよみがえる。

[2011] 978-4-8158-0672-9

瀬口昌久著

老年と正義

—西洋古代思想にみる老年の哲学—

四六判・328頁・3,600円

老年論の原点——。老年とはたんに福祉の対象なのか。人生の最終章をむかえ、あらためて正しく生きることを考え、実践すべき時ではないのか。老人は政治にも参与すべきか。西洋古代思想にさかのぼり、見失われた正義という観点から、老年を内面から支える精神的基盤を問い直す注目の書。

[2011] 978-4-8158-0676-7

田中秀夫著

アメリカ啓蒙の群像

—スコットランド啓蒙の影の下で 1723-1801—

A5判・782頁・9,500円

フランクリンからジェファソンにいたる「アメリカ建国の父たち」に焦点を合わせ、大西洋を越えた思想的交流を跡づけることによって、「アメリカ啓蒙」の実像を明らかにする。「スコティッシュ・モーメント」はアメリカにいかなる影響を及ぼしたのか。

[2012] 978-4-8158-0685-9

エリオット・ソーバー著 松王政浩訳

科学と証拠

—統計の哲学 入門—

A5判・256頁・4,600円

科学理論はどのように根拠づけられるのか。その根幹を支える統計的推論の枠組みを丹念に検討し、ベイズ主義や有意検定、AICなどが抱える本質的課題を浮彫りにする。科学において証拠の果たすべき役割を、哲学者と科学者の双方に向けて明瞭に示した希有な著作。

[2012] 978-4-8158-0712-2

吉田 裕著

バタイユ 聖なるものから現在へ

A5 判・520 頁・6,600 円

思想家バタイユの強烈な思考のうねり——「過剰さ」の行方——をその生涯にわたって辿りつつ、政治・宗教・芸術など複数の領域の交点で、またニーチェやヘーゲルとの対峙の極点に、斬新なバタイユ像を描き出す。多様な書物・思考から浮かび上がる全体性を捉えた思想の伝記。

〔2012〕978-4-8158-0713-9

東長 靖著

イスラームとスーフィズム

—神秘主義・聖者信仰・道徳—

A5 判・314 頁・5,600 円

新たな包括的理解の試み——。従来「イスラーム神秘主義」と訳され、知的エリートの深遠な思索がクローズアップされてきたスーフィズム。本書は、聖者信仰・「教団」など民衆の要素や歴史的・地域的展開もふまえ、その多様な姿をイスラームの中核に位置づけた画期的論考である。

〔2013〕978-4-8158-0721-4

田中祐理子著

科学と表象

—「病原菌」の歴史—

A5 判・332 頁・5,400 円

細菌学の成立とともに、その歴史も誕生したが、「では細菌は？」との問いに、いかに答えるのか。4 人の「父」それぞれの認識のみならず、その衝突と対立、いや孤立をすら思考し、そこに浮かび上がる歴史の力を批判的に捉えた斬新な著作。表

象文化論学会賞奨励賞受賞

〔2013〕978-4-8158-0727-6

伊勢田哲治／戸田山和久／調麻佐志／村上祐子編

科学技術をよく考える

—クリティカルシンキング練習帳—

A5 判・306 頁・2,800 円

遺伝子組換え作物、乳がん検診、地球温暖化、地震予知……現代社会に生きる上で必要不可欠な科学技術に対し、私たちはどう向き合えばよいのか。理系人間にも文系人間にも必須の、自分の頭で考えぬく力を身につける、まったく新しいスタイルの「練習帳」。

〔2013〕978-4-8158-0728-3

坂本達哉著

社会思想の歴史

—マキアヴェリからロールズまで—

A5 判・388 頁・2,700 円

近代と向き合い、格闘し、支えた思想家たちの思考のエッセンスを平易に解説、自由と公共をめぐる思想的遺産を縦横に論じて、現代社会をよりよく考える基盤を指し示す。政治・経済・哲学の枠を超え、近代社会の通奏低音をなす思想の姿を浮かび上がらせた、刺激に満ちた最良の道案内。

〔2014〕978-4-8158-0770-2

長尾伸一著

複数世界の思想史

A5 判・368 頁・5,500 円

人間知性の歴史のなかで、宗教・形而上学から科学まで様々な形をとって展開してきた「世界の複数性」論。天文学の複数性論を軸にその水脈をたどり、宇宙に関する知的考察を方向づけてきたこの世界観＝「巨大仮説」の意義を明らかにする。自己中心性が駆動する「近代」を問い直す力作。

〔2015〕978-4-8158-0796-2

戸田山和久著

科学的事実論を擁護する

A5 判・356 頁・3,600 円

科学的知識は信頼できるのか？ 科学技術の負の側面は様々に指摘されるが、科学の営み自身は否定しにくい。ではそれはどう正当化されるのか。科学の核心にわだかまる問題を、諸説を見事に整理しつつ知識のあり方を捉え直すことで解決。新たなスタンディングポイントを示す渾身の書。

〔2015〕978-4-8158-0801-3

中尾 央著

人間進化の科学哲学

—行動・心・文化—

A5判・250頁・4,800円

ダーウィン『種の起原』刊行から150年以上が過ぎた。だが、人間の心や文化を進化の枠組みで考えることは、いまだ容易ではない。人間の行動進化をめぐる諸科学のプログラムを横断的に検討することを通して、「人間とは何か」という問いに新たにアプローチ。

〔2015〕978-4-8158-0803-7

レイチェル・クーパー著 伊勢田哲治／村井俊哉監訳

精神医学の科学哲学

切実な問いにこたえる——。科学哲学の思考を応用して精神医学の世界をつぶさに分析、精神医学批判の様々な疑念に答えつつ、医療現場の実践に即した提言を行う待望の書。精神疾患の実在から、心と脳の関係、臨床試験の妥当性まで、複雑化する問題にいかに向き合うのか。

〔2015〕978-4-8158-0807-5

永岡 崇著

新宗教と総力戦

—教祖以後を生きる—

教祖亡き後、その存続をかけて自己形成をはかる新宗教。当局の介入や国家主義の高まり、戦時総動員の動きの中で、指導者や信者らは、「遺産」をどう読み替え、信仰実践の地平を拓いたのか。天理教を事例に、人々が生きた新宗教の実像に迫る。日本宗教学会賞、日本思想史学会奨励賞受賞

〔2015〕978-4-8158-0815-0

A5判・368頁・5,400円

ピーター・ギャリソン著 松浦俊輔訳

アインシュタインの時計 ポアンカレの地図

—铸造される時間—

時代の焦点で発火した思考——。相対性理論の核心にある「時計合わせ」のアイデアが、世界標準時論争や規約主義の展開、電気時計や海底ケーブルなど、時代の政治・哲学・技術の焦点に位置していたことを明らかにし、「孤高の天才」とはほど遠い二人の立役者の活躍を浮彫りにする傑作。

〔2015〕978-4-8158-0819-8

A5判・330頁・5,400円

ケンダル・ウォルトン著 田村均訳

フィクションとは何か

—ごっこ遊びと芸術—

ホラー映画を観れば恐怖を覚え、小説を読めば主人公に共感する——しかし、そもそも私たちはなぜ虚構にすぎないものに感情を動かされるのか。芸術作品から日常生活まで、虚構世界が私たちを魅了し、想像や行動を促す原理を包括的に解明するフィクション論の金字塔。

〔2016〕978-4-8158-0837-2

A5判・514頁・6,400円

S.シェイビン／S.シャッファー著 吉本秀之監訳 柴田和宏／坂本邦暢訳

リヴァイアサンと空気ポンプ

—ホップズ、ボイル、実験の生活—

実験で得られた知識は、信頼できるのか。空気ポンプで真空実験を繰り返したボイルと、実験という営みに疑いをもったホップズ。二人の論争を手がかりに、内戦から王政復古期にかけての政治的・社会的文脈の中で、実験科学の形成を捉え直した名著、待望の邦訳。

〔2016〕978-4-8158-0839-6

A5判・454頁・5,800円

D.ルイス著 出口康夫監訳 佐金武／小山虎／海田大輔／山口尚訳

世界の複数性について

われわれの住むこの世界とは異なる、可能世界は実在するのか？ この上なく大胆な枠組みを、明晰かつ説得力ある語り口で展開。可能性や必然性などを新たな形でとらえ直すことで、世界のあり方のかつてない仕方での問いかけ、知的転回をもたらした衝撃作、待望の邦訳。

〔2016〕978-4-8158-0846-4

A5判・352頁・5,800円

久木田水生／神崎宣次／佐々木拓著

ロボットからの倫理学入門

A5判・200頁・2,200円

自動運転車やケア・ロボット、自律型兵器などが引き起こしうる、もはやSFでは済まされない倫理的問題を通して、人間の道徳を考える、知的興奮に満ちた入門書。「本書には、ロボットやAIという新しい隣人たちとつきあう上で参考となる倫理学の知恵が詰まっている」——伊勢田哲治。

〔2017〕978-4-8158-0868-6

マイケル・ワイスパーク著 松王政浩訳

科学とモデル

—シミュレーションの哲学 入門—

A5判・324頁・4,500円

モデルとは何か？ なぜ世界を捉えたとと言えるのか？ さまざまなモデルが果たす役割を分野横断的に分析し、その核心を哲学者と科学者の双方に向けて明解に提示。「モデル概念を軸に科学哲学を書き換える。よりスリリングでリアルな科学哲学の始まり始まり！」——戸田山和久。

〔2017〕978-4-8158-0872-3

L. A. ポール著 奥田太郎／薄井尚樹訳

今夜ヴァンパイアになる前に

—分析的実存哲学入門—

A5判・236頁・3,800円

進学、就職、転職、結婚、出産など、人生の岐路で大きな決断を迫られたとき、人は合理的に選択することができるのか。何かを選ぶことで、今とはまったく違う自分になってしまうかもしれないというのに——。誰もが悩む「変容の経験」、その実存的な問いを分析哲学の視点から考える。

〔2017〕978-4-8158-0873-0

池上俊一監修

原典 ルネサンス自然学 [上]

菊判・650頁・9,200円

万物をめぐる知の総体を集成——。身体から宇宙まで、料理から農事まで、魔術から機械まで、実験から教育まで、驚異から地理まで、計算から原子まで……、本邦初訳テキストと貴重図版により「科学的人文主義」の精華をつたえる待望のアンソロジー上巻。日本翻訳出版文化賞受賞

〔2017〕978-4-8158-0880-8

池上俊一監修

原典 ルネサンス自然学 [下]

菊判・654頁・9,200円

異質な時空の交差する全2巻——。身体から宇宙まで、料理から農事まで、魔術から機械まで、実験から教育まで、驚異から地理まで、計算から原子まで……、本邦初訳テキストと貴重図版により「科学的人文主義」の精華をつたえる待望のアンソロジー下巻。日本翻訳出版文化賞受賞

〔2017〕978-4-8158-0881-5

神塚淑子著

道教經典の形成と仏教

A5判・596頁・9,800円

大宗教への飛躍と確立——。仏教伝来のインパクトを受け体系化する道教。中国固有の思想との相克のなか、融合はいかになされたのか。靈宝経や天尊像から坐忘論まで、生み出された經典・儀礼・聖像等を通して、六朝隋唐時代におけるダイナミックな展開を描き出す労作。

〔2017〕978-4-8158-0885-3

スコット・ジェイムズ著 児玉聡訳

進化倫理学入門

A5判・336頁・4,500円

長い進化の過程で、人間はなぜ、どのように道徳感覚を手に入れたのか。進化で道徳を説明できるのなら、そもそも道徳理論など不要ではないのか。心理学や神経科学の最新の知見を交えてなされる活発な議論を一望。道徳とは、人間の本性とは何かを問うすべての人に向けた最良の入門書。

〔2018〕978-4-8158-0896-9

有賀暢迪著

力学の誕生

—オイラーと「力」概念の革新—

A5 判・356 頁・6,300 円

ニュートン以後、自然哲学との決別を通して力学は生まれ直した。惑星の運動から球の衝突まで、汎用性をもつ新たな学知が立ち上がる「静かな革命」を丹念に追跡。オイラーの果たした画期的役割を、ライプニッツやベルヌーイ、ダランベールやラグランジュらとの関係の中で浮彫りにする。

[2018] 978-4-8158-0920-1

W. ウォラック／C. アレン著 岡本慎平／久木田水生訳

ロボットに倫理を教える

—モラル・マシーン—

A5 判・388 頁・4,500 円

AI やロボットは、果たして道徳的になれるのか。間近に迫る倫理的な機械の必要性を、哲学的背景も含めて明確に提示。実現に向けた種々の工学的アプローチを概観し、困難ではあるが避けがたい取り組みのこれからを展望する。エンジニアと哲学者を架橋する待望の書。

[2018] 978-4-8158-0927-0

田村 均著

自己犠牲とは何か

—哲学的考察—

A5 判・624 頁・6,300 円

日常の「自分を殺す」行いから極限状況まで、広く見られる自己犠牲——。なぜそれは可能で、どのようにして生み出されるのか。日本人戦犯裁判の事例を糸口に、西洋近代哲学では問えなかった問いを、人類学や心理学の知見をも参照しつつ根底から考察し、私たち自身の現実を哲学的に解明。

[2018] 978-4-8158-0928-7

戸田山和久／唐沢かおり編

〈概念工学〉宣言！

—哲学×心理学による知のエンジニアリング—

A5 判・292 頁・3,600 円

概念は、人類の幸福に深くかかわる人工物であり、概念工学とは、有用な概念を創造・改定する新たなフレームワークである。本書はその基礎的な理論を提示するとともに、「心」「自由意志」「自己」などを例に実践的な議論を展開し、豊饒な学の誕生を告知する。

[2019] 978-4-8158-0941-6
